

裸眼立体映像表示・ 画像処理開発

三次元映像通信・放送のための中核的要素技術

慶応義塾大学、東京工業大学、名古屋大学、福井大学と中京テレビ放送(株)では情報通信研究機構 NICTの委託研究を受け、将来の立体放送や自由に視点を変えられる映像サービスの実現に向けた研究を進めています。大学で研究中の画像処理技術を実際のスポーツ中継などで実用性を検証しながら、誰でもが使いやすい撮影システムや画像処理ツールを開発します。

NIXUSはこの研究にて実用的なシステム開発やツール制作をサポートしています。

展示品1 デプスカメラ合成裸眼立体表示

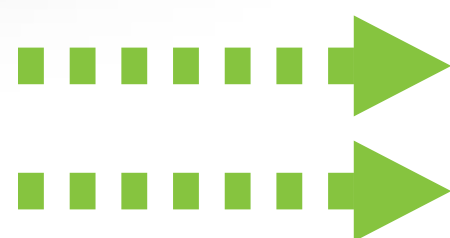
三次元映像を生成するために奥行き情報を計測できるデプスカメラを利用する方法があります。今回のデモではスイス MESA 社のデプスカメラ「SR-4000」とポイントグレーリサーチ社の IEEE1394 カメラ「Flea2」の画像情報をリアルタイムで合成し、フィリップス社の多眼立体ディスプレイに表示するデモを行います。



展示品2 立体映像制作、画像補正ツール

多眼、2眼を問わず立体映像の撮影と表示では、複数画像間の高さのズレが眼精疲労につながるなど問題となります。撮影時に細かく調整してもなかなか難しい高さ合わせですが、三次元画像処理を用いると良好な結果が得られます。今回は独自に制作した補正プログラムと、これを用いて制作した立体映像をフジフィルム社の裸眼フォトフレームにて表示します。

同期撮影された2枚の画像



三次元画像処理



裸眼立体表示



<問合せ先>

Nict Mveg Project Email:nict-mveg@ctv-dmd.net